

日本におけるARTで産まれた児の90%以上の割合を凍結融解胚移植が占めていますが、凍結融解胚移植とくにホルモン補充周期 における周産期合併症については近年以下のような報告があります。

①新鮮胚移植と比較し凍結融解胚移植は妊娠高血圧症候群と癒着胎盤のリスクが高い

②凍結胚移植において、排卵周期と比較しホルモン補充周期で妊娠高血圧症候群、癒着胎盤の発生率が上昇するため、近年、凍結融解胚移植(FET)における、子宮内膜調整法においては排卵周期FETの割合が増加しており、当院でも約40%を占めており、妊娠率はホルモン補充周期と同等の結果となっています。

排卵周期FETにおいては排卵障害を有する多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)におけるレトロゾールの有用性が報告されています。

また近年は排卵障害のない症例においてもその有用性が報告されてきています。

今回われわれは排卵障害のない月経周期順調な症例のFETにおける自然排卵周期群とレトロゾール排卵周期群を比較し、レトロゾールの有用性を検討し、第43回日本受精着床学会総会・学術講演会(世界体外受精会議記念賞候補演題に選出されました)にて発表してきましたのでご報告いたします。

排卵障害のない症例における
排卵周期凍結融解胚移植における検討
～自然排卵周期とレトロゾール排卵周期の比較～

目的

近年、凍結融解胚移植(FET)においてはホルモン補充周期(HRC)における周産期合併症リスクを考慮し排卵周期FETが増加している。当院でも約40%を占め妊娠率はHRCと同等の結果である。排卵周期FETにおいては排卵障害を有するPCOSにおけるレトロゾールの有用性が報告されている。今回われわれは排卵障害のない症例のFETにおける自然排卵周期群とレトロゾール排卵周期群を比較し、レトロゾールの有用性を検討した。

方法

検討①

対象

2023年12月-2024年12月

単一胚盤胞移植

除外：月経不順、子宮奇形、PGTA

自然排卵周期:NC 45症例 56周期

レトロゾール排卵周期:レトロ 76症例 101周期

検討項目

【ET決定時】LH(mIU/ml)・P4(ng/ml)・EM厚・16mm以上の发育卵胞数

【排卵確認時】P4(ng/ml)・EM厚

【ET日】月経周期(日)・EM厚

【妊娠成績】臨床妊娠率・流産率

検討②

【ETキャンセル率】 * 2024年7月-12月

ET予定周期数(NC:81周期 レトロ:145周期)

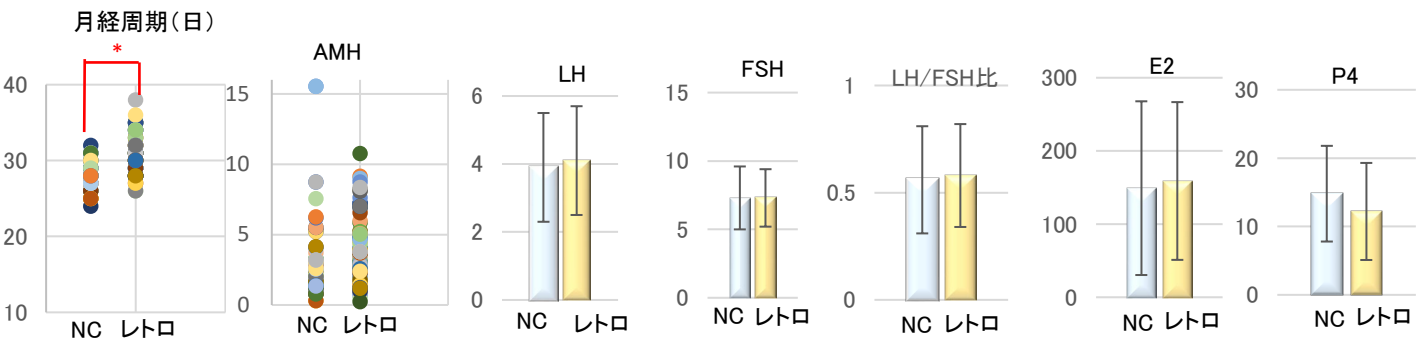
結果

症例背景

	NC	レトロ	P
症例数	45	76	
年齢	35.4±2.7	34.3±3.6	0.103
不妊期間(月)	31.3±22.7	26.8±16.4	0.218
経産	42.2%(19/45)	42.1%(32/76)	1
月経周期(日)	28.0±1.6 (min24-Max32)	30.6±2.5 (min26-Max38)	<0.001
AMH(ng/ml)	3.2±2.6	3.8±2.4	0.207

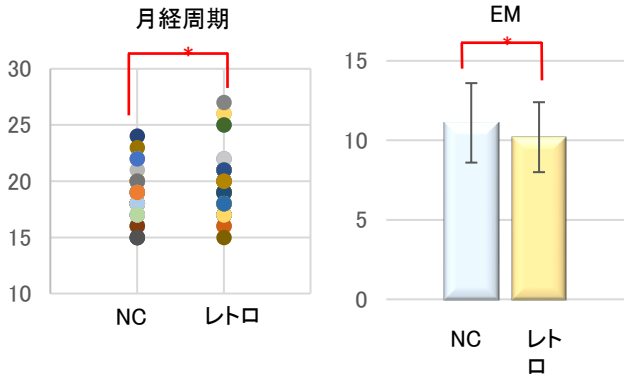
初診時スクリーニング検査

	NC	レトロ	P
症例数	45	76	
basal LH(mIU/ml)	3.9±1.6	4.1±1.6	0.303
basal FSH(mIU/ml)	7.3±2.3	7.3±2.1	0.855
LH/FSH比	0.56±0.25	0.58±0.24	0.660
高温期E2(pg/ml)	149.1±118.7	158.9±107.8	0.688
高温期P4(ng/ml)	14.8±7.0	12.2±7.1	0.093



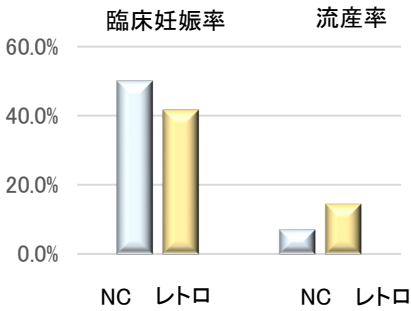
ET日

	NC	レトロ	P
月経周期(日目)	18.3±2.0	19.5±2.0	0.000427
EM (mm)	11.1±2.5	10.2±2.2	0.0262



妊娠成績

	NC	レトロ	P
臨床妊娠率	50.0%(28/56)	41.6%(42/101)	0.32
流産率	7.1%(2/28)	14.6%(6/41) * 1例の中絶省く	0.339



ETキャンセル率

	NC	レトロ	P
ET予定周期数 * 2024年7月-12月	81	145	
ETキャンセル周期数	25	41	
キャンセル理由			
卵胞発育せず	0%	2.7%(4/145)	0.131
EM厚くならず	0%	0%	
ET決定時にLH ↑ P4 ↑ 排卵後	27.1%(22/81)	23.4%(34/145)	0.558
患者都合等	3.7%(3/81)	2.1%(3/145)	0.463

結論

レトロゾール排卵周期においては、自然排卵周期と比較して子宮内膜厚が有意に薄い傾向を認めたが、血中ホルモン値および妊娠成績においては有意差は認められなかった。

また、レトロゾール排卵周期では月経周期が長い症例が多く、ET日も遅れる傾向が見られたが、妊娠率の低下にはつながらなかった。

さらに、卵胞発育不良による周期キャンセルは少なく、ETキャンセル率の上昇も認められなかった。

以上の結果より、レトロゾールは排卵障害のない症例のFETIにおいて有用な選択肢である可能性が示唆された。

今後は症例数をさらに増加させ、詳細な検討を進める予定である。